

発育・肉質に優れた日本短角種優良種雄牛「勝富」の作出

平成14年度に日本短角種産肉能力検定(間接法)の実施によって、検定種雄牛の遺伝的能力を推察した。その結果、「勝富」の検定成績が優れていたため、人工授精用基幹種雄牛に選抜し、凍結精液の供給を開始した。



【 勝 富 】

生年月日；平成10年3月10日
 登録番号；本第1415号(体型得点；80.4点)
 生産地；岩手県下閉伊郡川井村
 生産者；山口益吉氏
 父；敏富(本第1214号)
 母の父；若花(本第772号)

直接検定；平成11年度実施
 日増体量1.17kg

【 間接検定成績の概要 】

皮下脂肪厚では、平均値より厚い結果となったものの、日増体量、枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑では、非常に優れた結果となった。なかでも、ロース芯面積は歴代1位、脂肪交雑は3位の成績であり、特に優れていた。

表1 「勝富」間接検定成績

	勝富 n=8	H1~H13の間検成績平均 65セット(n=504)
日増体量(kg/日)	1.23	1.14
枝肉重量(kg)	427.6	387.7
枝肉歩留(%)	61.5	61.7
ロース芯面積(cm ²)	53	45.3
皮下脂肪厚(cm)	3.6	2.4
歩留基準値	72.7	72.7
脂肪交雑	1.00	0.69
格付別頭数(頭、%)		
A-3	7	12.7
A-2	0	26.0
B-3	1	6.0
B-2	0	11.3

*各部位の測定値・格付は畜産研究所によるもの

【 間接検定調査牛の枝肉写真 】

- ・左 調査牛2号 母の父；川福(本1026)
 ロース芯面積 55.2cm²
 脂肪交雑(BMSナンバー) 5
- ・右 調査牛5号 母の父；幸秀(本1272)
 ロース芯面積 50.3cm²
 脂肪交雑(BMSナンバー) 4

両方ともロース芯面積が大きく、脂肪交雑が優れていることがわかる。

